

修文女子高×カレー

愛知淑徳大×風呂敷

産学連携を後押し

町おこしと販路拡大

愛知県の2信金

愛知県一宮市に本店を置く2つの信用金庫が地域活性化や販路拡大で産学連携に取り組んでいる。尾西信用金庫は女子高生の味覚で当地カレーづくりの橋渡しを進め、一方のいちい信用金庫は大学生の知恵で風呂敷メーカーを後押しする。

年前から進めている。レストランを巻き込みラムばりトルト。羊肉を使った新作カレーができないか持ちかけた」（尾西信金・地方創生室の阿部幹根室長）という。

14日にはオリエンタル・研究開発室が修文女子高に試作品を持ち込み、高に試作品を持ち込み、試食会が開かれた。木村孚男理事長ら信金幹部や学校関係者が見守る中、食物調理科の1〜3年生11人が試食、採点した。同校の柳原万里枝助手は「自分たちの感性が商品

に活かされるかもしれない。貴重な体験になった」と話す。

採点結果をもとにさらにカレーの味を絞り込んでいく。10月には一宮市の秋祭りが開催される。その場で一宮当地カレーが披露される。

いちい信用金庫が後押しするのは名古屋が本社の風呂敷製造の「三景」。娘3人で家は傾くと揶揄されるほど名古屋が受け止め、連携相手の愛知淑徳大学につないだ。メディアプロデューサーの宮田雅子准教授が新商品開発プロジェクトとして授業を取り上げることになった。15日にはゼミ生18人が包む・結ぶをテーマにリサーチした課題発表会が行われた。



真剣な表情で味をチェックする修文女子高の生徒たち



風呂敷の可能性を探る愛知淑徳大学・宮田ゼミの学生ら

三景の水谷省吾常務取締役は「既存の商品だけでは突破口が見いだせない」と話し、新商品だけでなく風呂敷文化の発信にも期待を寄せた。

宮田准教授は「実際に考えたものが評価されたり又出されることに意味がある」と話し、学生からは「（風呂敷は）見たことばあっても使ったことがないもの。不安もあるが、自分たちの柔軟さでどうデザインをしていけるか楽しみ」と笑いを誘った。さらに授業で検討を重ね11月には自分たちで作った製品の発表会を開く。